

こんぶくろ池通信

2026年1月

第141号

NPO法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: http://www.konbukuroike.com

主な予定

2月14日（土）

～22日（日）

柏ネイチャークラフト展

於：あけばの山農業公園

3月29日（日）

13:00～16:00

保全活動報告会

於：東京大学柏キャンパス

秋のワークショップ～森の素材で作ってみよう～

2025年11月3日（祝）、爽やかな秋晴れの中でワークショップを開きました。リース作りと葉っぱスタンプの2部構成で、リース作りはこれが初めての開催になります。

【リース作り】

9:00～11:00 参加者9名のうち作成者9名（おとな4名、こども5名）

吉野 妙子

昔から森は冬を迎える前に小さな贈り物をくれます。木の実や枝、そして緑の香り。これらの森の恵みを活かして、世界にひとつだけのクリスマスリースを作りました。

始めに管理棟前の広場で葛や藤、カナムグラ等のつるを使って土台を作り、その後管理棟の中でグルーガンの使い方の説明の後、いよいよスタート。ただ当園だけでは足りない松ぼっくりや木の実はスタッフが事前に近隣の公園から準備しました。（どんぐりは茹でて中のゾウムシを駆除）。

子供たちが木の実や枝を選ぶ時のキラキラした目、完成した時の嬉しそうな笑顔、どれもとても輝いていました。

森の中を散策しながら自分で集めた素材で作ったリースにはひとつひとつ思い出が詰まっています。

今回の体験を通して自然との繋がりや季節の移ろいを感じてもらえば幸いです。



【葉っぱスタンプ】

13:00～15:00 参加者 18 名のうち作成者 10 名（おとな 2 名、こども 8 名）

新山 洋子

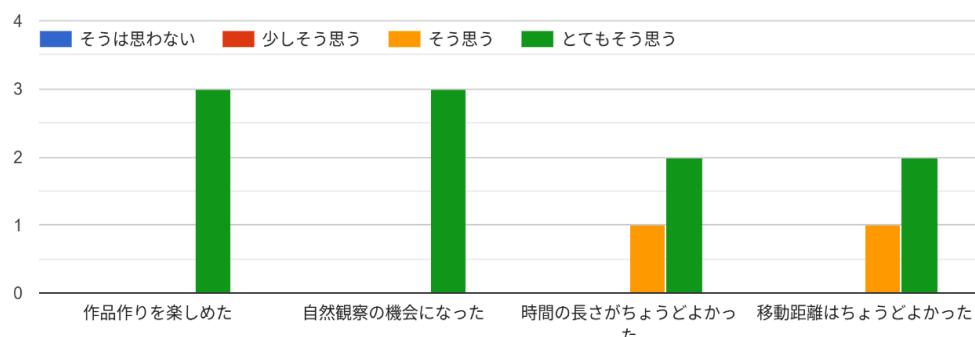
小学生以下の小さなお子様でした。森の中から、気に入った葉を自由に集めて、どこにどの様にスタンプするか試行錯誤です。色、形、同じ種類でも、その空間にぴったり当てハマる物を見つけるのは至難の業です。そんな中、葉脈を綺麗に浮き上がらせる方法を見つける子、1枚の葉を4色のグラデーションで表現する子、何重に重ねた葉で1つの模様を完成させる子、あえてはみ出すことで空間の広がりを見出す子、両手をべったり塗って、その日にしか取れない成長の記録を烙印する子。思い思いに森から映し取った my バックを笑顔で抱きしめていました。また、森の中でお気に入りの形を見つけてもらえたら幸いです。



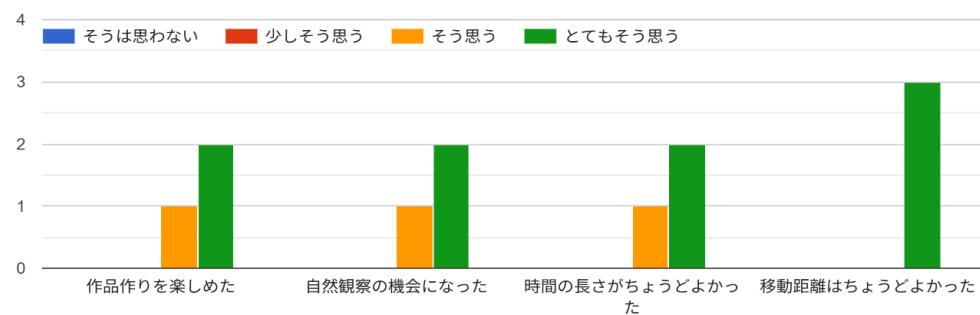
アンケート回答

秋のワークショップに参加した感想をお伝えください。		当園へのご要望などがあれば教えてください
リース	里山の中を散策をしながら、材料集めをし、自然の中でのリース作りは最高でした。事前に色々な材料も用意して頂いており、沢山の材料の中で作業はとても楽しかったです。	
	とても楽しかったです！森の散策ではどんどんと植物などのキーワードが出てきて、記憶に留めておくことはできませんでしたが、改めて自然を体感できる良い機会でした。	柏の葉公園キャンバス駅からこんぶくろまで散策マップを作ってもらってはどうか？散歩がてら街の公園ではなく自然公園に足を運んでもらうための工夫を、駅前開発やまちづくりの延長として位置付けてもらえば、多くの人が訪れて関心を持ってもらえるのではないか？
葉っぱスタンプ	園内の散策もあり、楽しめました。 大変お世話になりました。孫達が皆、とても充実した時間を過ごす事が出来、とても良かったです。	四季折々の体験イベントがあると定期的に訪問出来ると思います。
	3歳男児との参加でしたが、葉っぱ拾いがとても楽しかったそうです。お借りした籠が素敵で、3歳児は籠を持つのも嬉しかったようです。母は、葉っぱが沢山入ったみんなの籠の様子がとても綺麗で、それ眺めているだけでも満足な気持ちになりました。葉っぱ拾い散策中に教えていただいた植物についてのお話がとても興味深く、そのお話に対して3歳児なりに色々な疑問を持ったようです。今後の別企画で、もし、1家族に対して1人説明いただける方がついてくださるような機会があれば、是非参加したいです。葉っぱスタンプについては、うちの3歳児には、まだ少し早かったかもしれません、スタンプした葉っぱを剥がして仕上りを確認する作業は楽しんでいた様子です。母は、葉っぱスタンプがとても楽しく、次回機会があれば、もっと時間をかけて1人で作りたいと思いました。トートバッグは早速使っています。	公園のことについて、1家族に対して1人説明いただける方がついてくださるような機会があれば、是非参加したいです。

リース作りはいかがでしたか？



葉っぱスタンプはいかがでしたか？



秋の七草クズの知恵

橋本谷 弘司



クズの花



日陰のクズの葉



日向のクズの葉



夜間のクズの葉

秋の七草とは、ハギ、キキョウ、クズ、フジバカマ、オミナエシ、ススキ、ナデシコです。奈良時代初期の貴族・歌人である山上憶良が詠んだ歌にも出てきます。

これらの草花は薬草としても知られており古くから秋の七草に選ばれています。例えば、風邪のひきはじめに効用がある葛根湯は、クズの根を乾燥させた葛根に麻黄、桂皮、芍薬、生姜、棗、甘草を加えた七つの生薬からなっています。

9月ごろに赤紫色で蝶形の花を付けます。葉は3枚の小葉からなり、日陰の葉はほぼ水平に葉を開いていますが、日向の葉はほぼ垂直に立っています。これは日向では葉の温度が高くなりすぎ局所的に水不足になって光合成量が落ちるために葉を垂直に立てますが、これは小葉の基部にある少し膨らんだ部分（葉枕）の細胞群の間で水分が移動することによる現象です。また、夜には葉をだらりと下げますが、この原理はまだわからないようです。クズは天候の状況により葉の開閉をコントロールしていることが繁殖力にも貢献しているのか知れません。

北アメリカは1900年代牧草として、1930年代には緑化・土壤流失防止として日本のクズを輸入し、その役割を果たしましたが、繁殖力が旺盛であるため鉄塔を上り、送電線に絡みつきその重さで切断させる事故などがあり北アメリカでは非常に嫌われています。

逆に日本で非常に嫌われているセイタカアワダチソウは1910年頃観賞用植物として北アメリカから輸入されたものが野生化したものです。

クズの根・若芽・蕾・花などは食用に、根・葉などは薬用に、蔓からは纖維を取り出し布になります。また、籠を編んだり、リース（装飾用の輪）にと、クズは多岐にわたって利用されています。



葉枕（クズの小葉の基部）



管理棟前のクズ

11月7日（金）小学校体験学習

埼玉県所沢市にある小学校6年生約60人が、柏の葉を校外学習の地として訪れました。

「第4次産業及びSDGs」というテーマで柏の葉地区の学習プログラムを提供することとなり、UDCKが準備段階から取りまとめを行い、当日は柏の葉地区の説明やまち案内を行った後、4班（各15名程度）に分かれて、それぞれ別の体験プログラムを提供するということで、NPOも1プログラムを引き受けました。

小学校プログラム（こんぶくろ池）報告書

川瀬 美幸

参加者：小学校6年生児童16名→当日2名欠席、引率教員1名

UDCK：1名

NPO：中川、小川、中野、川瀬

湧水体験プログラム当日は爽やかな秋晴れ。手づくり広場に迎えに行くと6年生児童たちは芝生広場を走り回ったり、小山に登ったり、子どもらしく元気いっぱいの様子でした。

人数を確認し、NPOの挨拶をしてからスタート。こんぶくろの森には工事中の東側道路の歩道を通り裏側からアクセスしました。区画整理中の森周辺は工事車両が動いている様子や、造りかけの道路など、

開発工事真っ最中の様子を目の当たりにして、昔はもっと森が広かつたことを話すと、子どもたちは学校の向かい側の大きな森が最近伐採されたことを教えてくれました。

森の園路を歩くと「森のなかを歩くのは久しぶりで楽しい」「道路と違い歩くとふかふか」「森のなかは空気がいいね」などの感想が出ていました。

園路わきの土が盛り上がった「野馬土手」を見ながら、江戸時代の牧のことを説明したのですが、絵などでもっと分かりやすく説明したら良かったかな、と感じました。

さて、メインの体験プログラムは足元の落ち葉をそつとめくり、その下でどう変化していくか実際に自分たちでトレーに採取して観察する、という内容です。深呼吸して自然観察の基本である「五感」での観察方法を伝えスタート。

落ち葉をめくりながらヤスデやクモ、甲虫などを次々に見つける子、ひたすら地面を掘りまくる子、きのこを探す子、皆それぞれ楽しそうに取り組んでいました。

気付いた事を発表してもらうと「落ち葉が黒っぽく小さくなり、下の方は形が無くなっていく」「土の上の方と下の方の色が違う」など、よく観察できていました。

その後、その森の土を使って実験タイム。「グランドの土」「畑の土」「森の土」で水の浸透実験を行いました。どの土が一番早く水を通すのか？出てくる水の色に違いはあるか？などを予想してもらい同時に実験装置に水を流し入れると、、、かなり比較しやすい結果が得られ子どもた



手づくり広場からスタート



体験プログラム



こんぶくろ池の湧水のしくみは？



記念撮影

ちは驚いた様子。そこで、なぜ違いが出るのか皆で考えてみました。「森の土に隙間がある」「森の土はふかふかしているから」などと、なかなか鋭い視点を持った子もいました。

土の団粒構造のことはまだ難しかったかもしれません。が、図を使いイメージでとらえてもらうようにしました。森の土を通った水はほぼ透明だけど、水には土の香りがほのかについているのも確認できました。NPO の小川さんからは畑の土は年に2回くらいトラクターでかき混ぜる、という事も教えてもらいました。かき混ぜることで土に違ひがでるのは面白い結果でした。

ここまで時間が押してしまったのですが、早足でこんぶくろ池まで歩き湧水の池を見てもらい、雨水が地面のなかを通って湧き出るしくみを説明しました。水の実験で土を通る水のイメージができたのが良かったかもしれません。

このツアーでは午前中は柏の葉キャンパスのスマートティ最新施設の見学を行いました。午後はそこから歩いて数分の場所に残る湧水池のある森に来てもらいましたが、自ら土を掘るなどの体験を通じて森の樹木と土壌動物や菌類などの関係、そこに降る雨や湧水のことなど、一連つながりを持って考えられたら、と願っています。

プログラムの時間的に余裕があまりなくて、説明も急ぎ足になる部分もありましたが、天気に恵まれ怪我無く無事に終了できたことがとにかく一番ほっとしております。



水の浸透実験



地層の模型

新入会員紹介

佐野 とうが 冬芽さん



参加動機：2021年、大学の卒業論文執筆にて大変お世話になりました、転勤後地元に戻ったことをきっかけに入会しました（市川市在住）。

趣味・好きなこと：街歩き、音楽鑑賞

貢献できそうなこと：公園整備、事務、広報、こんぶくろ池周辺地域の歴史調査

取り組んでみたいこと・分野：会の運営に関わること

ひとこと：少しでもこんぶくろ池の保存に貢献できたらと思います。よろしくお願いします。